



学校だより 青い鳥

平成29年度2月号
さいたま市立上落合小学校
平成30年2月1日作成

さいたま市中央区上落合4-14-24 TEL 852-5381
http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/ E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp

夢を語る

教頭 久保田 悌二

2020年東京オリンピック・パラリンピックの大会マスコットを学級単位で投票し、最多得票のデザインを採用するという報道等をご記憶の方も多いと思います。本校でも、1月中に各学級で投票するマスコットを決め、インターネットでの投票手続きを進めているところです。子どもたちには、オリンピックやパラリンピックの歴史や意義を理解してもらいだけでなく、数年後、そして大人になった自分の姿に思いを馳せる貴重な機会になったことと思います。

さて、お子さんは、将来の夢についてどのように語っているのでしょうか。第一生命保険株式会社が幼児・児童を対象に毎年行っている「大人になったらなりたいもの」調査の結果が発表されています。男女別の調査結果（上位3位まで）は次の通りです。

	1位	2位	3位
男子	学者・博士	野球選手	サッカー選手
女子	食べ物屋さん	看護師さん	保育園・幼稚園の先生

※職業の名称については、調査結果の表記をそのまま使用。

調査を行った会社の分析をそのまま載せることとなりますが、男子では15年ぶりに「学者・博士」が1位になり、「野球選手」が8年ぶりに「サッカー選手」を逆転したとのことです。また、女子では「食べ物屋さん」が21年連続で1位になり、高学年を中心に「看護師さん」を挙げる子どもが大幅に増えているとのことです。これらの背景には、ノーベル賞受賞等科学分野での活躍や野球の話題が増えたこと、医療にまつわるテレビドラマが放映されたことがあるのではないかと考えられています。子どもたちは、様々なことをきっかけとして夢を思い描くのでしょうか。

この調査結果を見て、私が子どもの頃はどうかを思い返してみました。スポーツと言えば野球。王選手が大活躍の時代でした。自分も一流の選手になれると信じ、低学年の頃は学校から帰ると友達と空き地に集合して野球を楽しんでいました。中学年の時には宇宙科学博覧会（通称「宇宙博」）が開催され、行列の末に「月の石」を見た時に、宇宙飛行士になりたいと強く心に願ったことを思い出します。様々な洋画が上映され、映画館に兄に連れて行ってもらい、映画を見た興奮から、漠然としてはいましたが、外国に出てみたいという思いをもったのも小学生の頃でした。

子どもによって、思い描く夢は様々です。その内容に優劣はなく、誰かと同じであっても違っていても構いません。今日言葉にしていた夢が、明日には変わっているかもしれません。その夢をもつきっかけとなった出来事等がどんなに些細なことであってもよいと思います。子どもが目を輝かせて夢を語り、その夢に向かっていこうとする意欲をもつことが大切だと思います。そして、夢に向かう子どもを周りの大人がいかに支え、手助けするのが重要なのではないのでしょうか。まずは、夢についてご家庭でお子さんとともに話題にしていただければ嬉しいです。

2月9日からオリンピック冬季競技大会が、3月9日からパラリンピック冬季競技大会が韓国・平昌で開催されます。これらの大会から、子どもたちは、どのようなことを感じ、思い、考えるのでしょうか。中には、将来の夢に結びつく子もいるのかもしれませんがね。ぜひ、このようなことをご家庭での会話のきっかけの一つとしてください。ただし、テレビの見すぎにはお気を付けくださいね。

学校教育目標

あかるく なかよく たくましく